ISSN 0288-1179

哲學論集

第49号　2002

遥かなる惜別 …… 箕浦恵了（1）
—偉大なプラトニスト、ガダマー先生を偲ぶ—

論　文

ゲーテのインド体験と二つのバラーデ …… 友田孝興（5）

非論理の論理 …… 門脇　健（20）
—問うことを問う論理—

「生と死」の文化 …… 本林靖久（33）
—ブータンと日本の死生観の比較を通して—

家族福祉研究の現状と課題 …… 鈴木未来（49）

自己解釈と解体 …… 岡本敦之（63）
—初期ハイデガーにおける解釈学について—

主体の社会関係が外界認知に及ぼす影響 …… 星津香織（82）

講の社会的機能とその消滅要因 …… 矢花秀樹（101）
—輪島市深見町の事例—

学会活動報告

大谷大学哲学会

大谷大学哲学会会則

第一条（名称）
本会は大谷大学哲学会と称する。

第二条（目的）
本会は、広義の哲学の研究と発表を行い、各学問領域の交流を盛んにして、学界に寄与することを目的とする。

第三条（事業）
本会は、下記の事業を行う。
1　会誌『哲學論集』の発行
2　その他必要な事業

第四条（会員）
本会の会員は、大谷大学哲学諸関連学科に所属する教員、大学院学生を中心にし、本会の趣旨に賛同する者とする。入退会は、第五条の2に定める委員会において、これを承認する。
但し、三年分の会費を滞納した者は会員資格を喪失するものとする。

第五条（役員）
本会は、下記の役員を置く。
1　会長　本会を代表し、運営における責任を負う。任期は2年とし、再任を妨げない。
2　学会委員　若干名をもって委員会を組織し、総会の決議に従い、本会の運営にあたる。任期は2年とし、再任を妨げない。

第六条（総会）
1　総会は、下記の事業を審議し、議決する。
(イ)　会長及び学会委員の選出
(ロ)　予算及び決算
(ハ)　事業方針
(ニ)　その他必要な事項
2　総会は、会長が召集し、会員の3分の1以上の出席をもって成立する。

第七条（経費）
本会の経費は、会費（年額5000円。但し学生会員は、博士課程学生3000円、修士課程学生2000円とする。）及びその他の収入による。

第八条（会計報告）
各年度会計報告は、総会において行う。

第九条（会則の変更）
本会則の変更は、総会において出席者の2分の1以上の同意を必要とする。

附則
1　本会則は、昭和54年4月1日より施行する。
2　昭和57年5月15日一部改正。
3　平成元年5月20日一部改正。
4　平成7年4月22日一部改正。

編集後記

二〇〇二年度は、大谷大学の教育・研究体制にとって大きな変化の年であった。四月より響流館が博物館を除いて開館し、その三階に置かれた総合研究室がスタートしたからである。ここに、一九八二年以来続いてきた、四群六層の博綜館研究室体制が、その理念を継承しつつ新たな形を得て生まれ変わった。これによって哲学会も、その拠点であった第二研究室から響流館へと活動の場を移すこととなった。

総合研究室には、大谷大学文学部のすべての分野に関わる任期制助手と大学院生、学生が集う。各学科・分野の伝統を継承し、専門性を磨く一方で、一つのフロアにおいて互いに交流し、刺激し合うことで、細分化する専門領域を横断し総合する知の営みの生み出されることが願われている。その一年目は、広大な空間に戸惑いながら、どのような補助線を引いていくかの試行段階であったと言えそうである。

そうした中で新たに委員となったわれわれとしては、例年通りの活動を展開していくのさえ精一杯で、哲学会と総合研究室との有機的関係の構築に向けた試みは何もできなかった。しかし、編集作業の中で、哲学会の活動そのものが横断的知の実践であるということを再確認することができた。

本号には、例年になく多くの論文が、しかも多彩なテーマで寄せられた。とくに、新たに設けられた任期制助手、博士後期課程の大学院生ら、若手研究者による力のこもった論文を掲載することができた。『哲學論集』の場に、これからの総合研究室の姿の一端をも実現できたのではないかと思う。執筆者の方々にあらためてお礼を申し上げたい。

また、巻頭には箕浦恵了名誉教授より昨年逝去されたガダマー博士を追悼する一文をお寄せいただいた。激動の二十世紀とともに西洋哲学の伝統を生き抜いたガダマーの妥協を許さない思索の姿が伝わってくる。ガダマーに直接薫陶を受けられた箕浦先生に追悼文をお寄せいただくことができ、編集委員一同、深甚の謝意を表する次第である。

（編集委員　松村・渡辺・谷口・田中　岡本・大橋・奥田）

哲學論集　第49号

2003年3月15日印刷
2003年3月20日発行

編集
発行　大谷大学哲学会
代表者　谷　泰

〒603-8143
京都市北区小山上総町
大谷大学内（TEL 075－432－3131）

印刷　㈱あおぞら印刷

TETSUGAKU RONSHU

THE PHILOSOPHICAL STUDIES

No. 49 2002

Gadamer, ein großer Platoniker des 20. Jahrhunderts ..... MINOURA Eryo (1)

Articles

Goethes Indienerlebnis und die zwei Balladen ..... TOMODA Takaoki (5)

The Nonlogical Logic ..... KADOWAKI Ken (20)
— The Logic which Questions Questioning —

The Culture of "Life and Death" ..... MOTOBAYASHI Yasuhisa (33)
— Comparison of the Religious View of Life in Bhutan and Japan —

Trends and Issues of Family Welfare Study ..... SUZUKI Miku (49)

Selbstauslegung und Destruktion ..... OKAMOTO Atsushi (63)
— Über die Hermeneutik beim frühen Heidegger —

The Influence of the Subject's Social Relationship on the Cognition of the External World
..... HOSHIZU Kaori (82)

The Social Function of Kō and the Factor of its Extinction ..... YABANA Hideki (101)
— The Instance of *Fukami-chō Wajima-shi* —

Announcements

THE OTANI PHILOSOPHICAL SOCIETY
OTANI UNIVERSITY